

「和久環組 中古+リノベで評価」神奈川新聞・経済面に紹介されました！



不動産会社・和久環組（横浜市神奈川区）が、成長が期待されるベンチャー企業を紹介する「ベストベンチャー100」、2015年度のグッドデザイン賞などに相次いで選ばれた。誰もが自分らしい住まいを手に入れられるよう、購入した中古物件にリノベーション（大規模改修）を施して提供するという事業スタイルなどが評価された。鎌田友和社長（37）にまつくりへの思いを聞いた。（田口 要）

2000年に不動産会社に入社。一戸建てやマンションの販売を担当してきたが、ずつと歯がゆさを感じていた。「顧客が心底、『良い住まい』と思えるものを提供したいのに、なかなかできない」。

消費者は住宅購入に夢を掲ぐ。ただ費用を見て、多くを諦め、夢が少しずつしぼんでいき、画一的な建築住宅という現実が落ち着く。注文住宅に手が届くのは、一部の高所得層。理想をかなえようとすれば、それだけコストがかさむ。自分ら

「自分らしい」住まい提供



中古、リノベ事業で評価

しい暮らしを当たり前に手に入れられる、低価格の住まいを提供したい。13年6月、和久環組を設立した。低価格と、自分らしさをどう両立させるか。目を付けたのが中古物件だ。主に割安な築25〜35年の中古物件を購入し、800万〜1千万円かけてリノベーションを施した上で提供する。それでも新築の3分の2ほどの価格だ。例えはもとなすこと好きな夫婦は子育てを終え、バーのような部屋に改修した。「中古でコストを抑え、リノベシヨ

ンで豊かさを上乗せすること、自分たちの生活に合った理想の住まいになる」日本人はどちらかといえば新しい物好きだ。中古といわれれば、魚のイメーじがまどわりつく。不安を払拭するため、同社は購入する物件のこれまでと、これから維持・修繕計画を調べる。「そこに暮らすことを考えれば、物件そのものを資産価値として見られるかは重要だ」と鎌田社長。顧客への丁寧な説明にも心をつと「わくわく」してもらいたい。「社名に込めた思いでもある」。

「受賞を励みに、期待に応えていきたい」と語る鎌田社長＝横浜市神奈川区

ベストベンチャー100など受賞 和久環組